46 エレミヤ 聖徒伝 266

滅びと救いを分けるもの

エレミヤ書49章　諸国民の裁き③　アンモン・エドム他

Shikaoichurch.com

今の時代のキーワードを
二文字で挙げるなら？

「分断」

世界も、キリスト教会も…、その先は？

滅びと救いを分けるもの

❶アンモン　回復　49:1～6

❷エドム　滅び　49:7～22

❸ダマスコ・ハツォル　滅び　49:23～33

❹エラム　回復　49:34～39

アンマン

聖書引用　新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会　許諾番号4-1062-2

0.　イントロダクション

■イスラエルは、多くの預言者の警告も拒み、背きを重ねた。

■北王国は、BC722年、アッシリアよって滅亡。
残る南王国も、バビロニアに滅ぼされ、エルサレムの民の多くは、強制連行された。（バビロン捕囚・BC586）

■エジプトに逃れた民は、厳しい裁きを受けて、滅ぼされた。

バビロンの浮彫

前説　エレミヤ書の構成　諸国民の裁きの位置づけ

- クライマックス　…イスラエルへの裁き・バビロン捕囚
- 後日談・エピローグ　…エジプトへの寄留と裁き
- 外伝・スピンオフ　…諸国民への裁き（45～51章）
- 結び　…命運が分かれた、捕囚後の王たち（52章）

諸国民への裁きは、外伝・スピンオフ

前説　諸国民の裁きの基準

■バビロニアの侵略は、イスラエルの周辺諸国にも及んだ。

➡周辺諸国の滅びも、神による裁き

■**裁きの理由は、**①イスラエルを苦しめたこと

②彼ら自身の偶像礼拝

…唯一の神を知ったにも関わらず

■**裁きの基準は、**①イスラエルをどれだけ苦しめたか

②イスラエルとの関係の近さ

【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？　実際は？】

【預言者たちの告げたこと】

南北時代

➡ ❶直近の苦難

メシア初臨

➡ ❷主の日 大患難時代

➡ ❸回復

メシア再臨

回復

❶アンモン

エレミヤ書49章1～6節

ヤボク川・ヨルダン

前説　❶アンモンとは？

- ロトの子孫。モアブとは兄弟民族。
- ヨルダン川東岸ギレアデ地方。
  首都ラバ・現在のアンモン。
- ダビデに征服。イスラエルの属国に。
- モレク神を崇拝。

❶アンモン　アンモンの支配　49:1

アンモン人について。【主】はこう言われる。「イスラエルには子がいないのか。世継ぎがいないのか。なぜ、ミルコム*がガド*を所有し、その民が町々に住んでいるのか。

＊アンモンの神

＊ヨルダン川東岸のガド族の地を支配

■アンモンによる侵略・支配は、
　イスラエルが主に反抗した罪の結果。

ヨルダン川東岸

❶アンモン　アンモンへの侵略　49:2

それゆえ、見よ、その時代が来る。――【主】のことば――そのとき、わたしはアンモン人のラバ*に戦いの雄たけびを聞かせる。そこは荒れ果てた廃墟となり、その娘たちは火で焼かれる。イスラエルがその跡を継ぐ*。――【主】は言われる――

＊アンモンの首都。現アンマン。

＊実現は千年王国において

■アンモンも、バビロニアが侵略。

アンマン・遺跡

❶アンモン　捕囚と略奪　49:3～4

ヘシュボンよ、泣き叫べ。アイが荒らされたから。ラバの娘たちよ、わめけ。粗布をまとえ。嘆いて囲い場の中を走り回れ。ミルコムが*、その祭司や首長たちとともに、捕囚として連れて行かれるからだ。

背信の娘よ、おまえの谷には水が流れている。なぜ、その谷を誇るのか。おまえは自分の財宝に拠り頼んで言う。『だれが私のところに来るだろう』と。

＊アンモンの偶像神も民と共に略奪される。

ヤボク川

❶アンモン

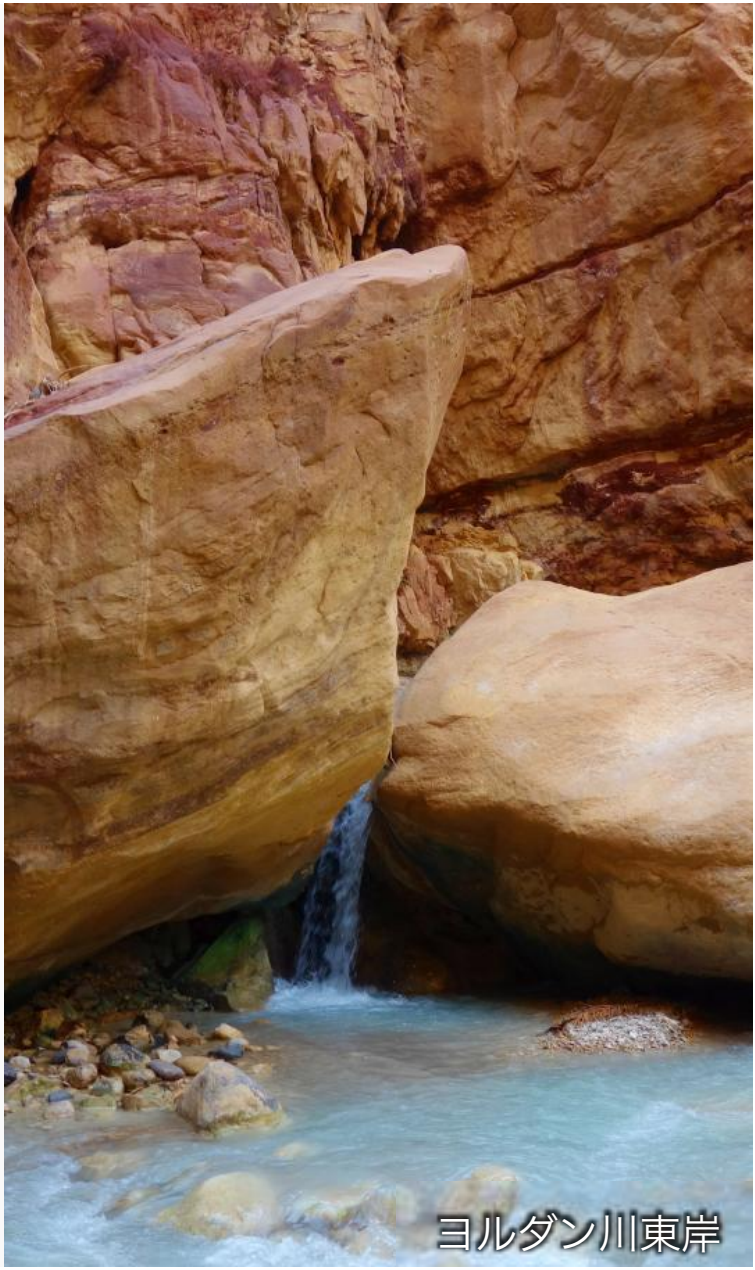
回復の預言　49:5～6

見よ。わたしは四方からおまえに恐怖をもたらす。――万軍の【神】、主のことば――おまえたちはみな散らされて、逃げる者を集める者もいない。

その後、わたしはアンモン人を回復させる*。――【主】のことば。」

＊兄弟民族モアブ同様に回復の預言が。

アンモンは千年王国で回復!!



まとめ　❶アンモンの滅びとその後

■バビロニアが侵略。全土が破壊。

➡首都ラバの民は捕囚に!!

■モアブへの裁きの理由

❶偶像礼拝・ミルコム神への礼拝

❷イスラエルのガド族の嗣業の地を奪った

■兄弟民族モアブ同様、千年王国で回復が預言。

回復

滅び

❷エドム

エレミヤ書49章7～22節

ネゲブの町

前説　❷エドムとは？

■イサクの子・エサウの子孫。

■死海の南部からアカバ湾。
セイル山地・ネゲブ砂漠
王の道・交通の要衝。

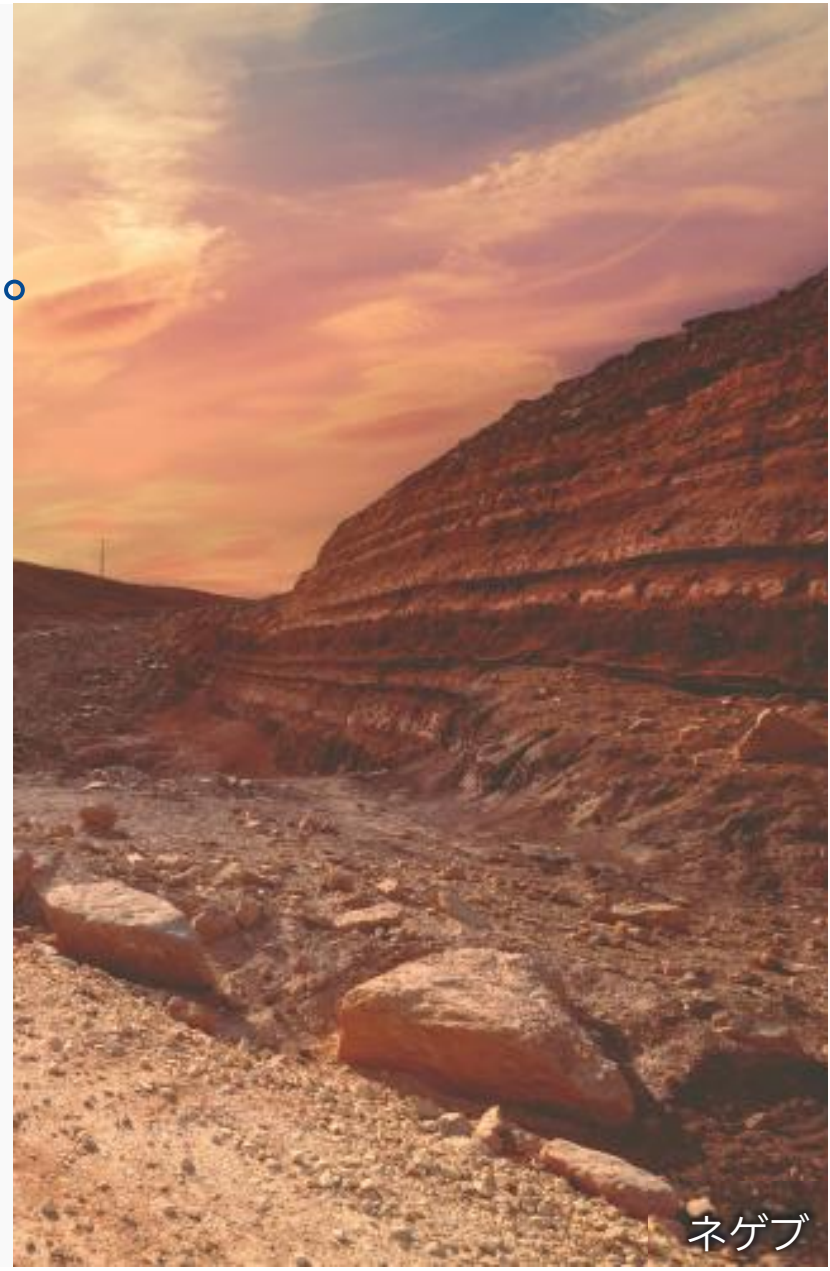
■荒野を旅してきたイスラエルを妨害。
ダビデ、ソロモンの時代は支配されていた。
アッシリアの侵略に乗じて、ユダを略奪。

❷エドム　主の御告げ　49:7～8

エドムについて。万軍の【主】はこう言われる。「テマン*には、もう知恵がないのか。賢い者から分別が消え失せ、彼らの知恵は朽ちたのか。

デダン*の住民よ、逃げよ。そこを離れよ。深く潜め。わたしが彼の上にエサウの災難を、彼を罰する時を、もたらすからだ。

＊エドムの主要な町々

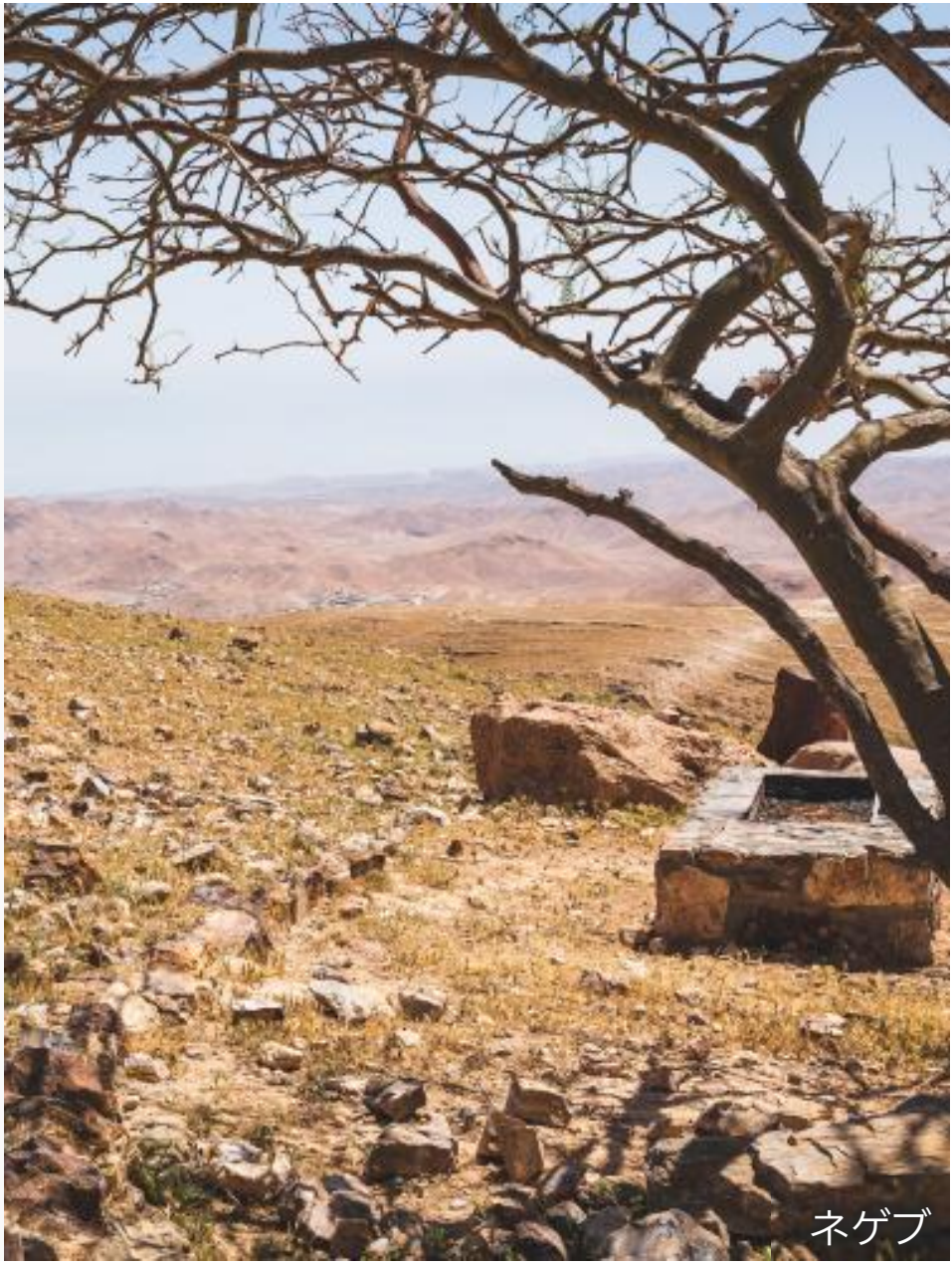


❷エドム　略奪の末に　49:9～10

ぶどうを収穫する者がおまえのところに来るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろう。盗人が夜中に来るなら、彼らの気がすむまで荒らすだろう。

しかし、わたしはエサウを裸にし、その隠れ場をあらわにし、身を隠すこともできないようにする。彼の子孫も兄弟も隣人も踏みにじられ、彼はいなくなる。

■徹底的に略奪、破壊されるエドム


ネゲブ

❷エドム　怒りの杯　49:11～12

おまえのみなしごたちを見捨てよ。わたしが彼らを生かし続ける。おまえのやもめたちは、わたしに拠り頼まなければならない。」

まことに【主】はこう言われる。「見よ。その杯*を飲むように定められていない者でも、それを必ず飲まなければならないのなら、おまえだけが罰を免れられるだろうか。罰を受けずにはすまされない。おまえは必ず飲まなければならない。

裁きの日のために生かされ続ける

＊神の裁きの怒りの杯

❷エドム　ボツラの没落　49:13

まことに、わたしは自分にかけて誓う——【主】のことば——。必ずボツラ*は恐怖のもと、そしりの的、廃墟、そしてののしりの的となる。そのすべての町は、永遠の廃墟となる*。」

＊モアブの裁き（28章）にも。

➡本来はエドムの都

後にナバテア人がペトラを築く

＊千年王国に廃墟が残る（イザヤ34章）

❷エドム　国々への使者　49:14～15

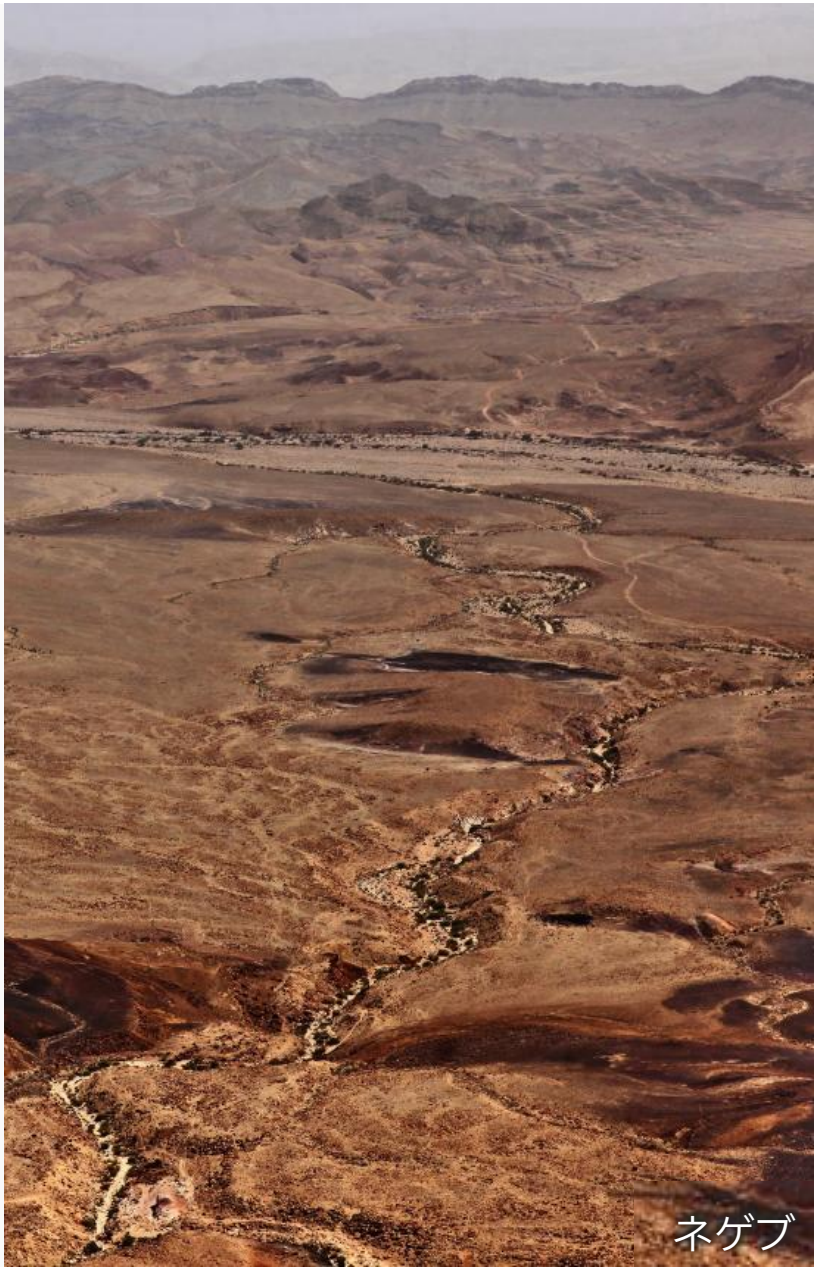
私は【主】から知らせを聞いた。「使者が国々に送られた*。『集まって、エドムに攻め入れ。戦いに向けて立ち上がれ。』

見よ。わたしがおまえを国々の中の小さい者、人に蔑まれる者としたからだ。

＊バビロニアが支配地や属国から兵を招集

■大艱難時代、ボツラにイスラエルが避難。

➡反キリストが招集した全世界の軍がエドムの地も滅ぼされる


ネゲブ

❷エドム　完全な廃墟に　49:16～17

岩の裂け目に住む者、丘の頂を占める者よ。おまえの脅かしと高慢は、おまえ自身を欺いている。鷲のように巣を高くしても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。――【主】のことば。」

エドムは廃墟となり、そこを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。

ソドムとゴモラとその近隣の町々が破滅したときのように――【主】は言われる――そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。

死海沿岸

❷エドム　バビロニアの侵略　49:19

「見よ。獅子*がヨルダンの密林から常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる牧者であろうか。」

＊バビロニアの象徴

■北のヨルダンの方から侵略が…。

❷エドム　裁きの計画　49:20～21

それゆえ、聞け。エドムに対して立てられた【主】の計画を、テマンの住民に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。

彼らの倒れる音で地は震え、その悲鳴は葦の海*でも聞こえる。

＊イスラエルが渡ったエジプトの海

➡エジプトに逃げても助からない!!

❷エドム　壊滅　49:22

見よ。彼は鷲のように舞い上がっては襲いかかり、ボツラに敵対して翼を広げる。その日、エドムの勇士の心も、産みの苦しみにある女の心のようになる。

■徹底した侵略によってエドムは壊滅。

究極的な裁きは大艱難時代に!!

まとめ　❷エドムの滅びとその後

■イスラエル、ユダへの略奪を繰り返してきた
　➡バビロニアによる徹底した略奪に!!

■弱体化、ナバテア人に追い出され、さらに南部に。

■ハスモン王朝に支配、ユダヤ教に強制改宗。同化。
　➡イドマヤ人　ヘロデ大王を輩出

■主の日に裁きを受け。千年王国に廃墟が残る。 **滅び**

滅び

❸ダマスコ・ハツォル　エレミヤ書49章23～33節

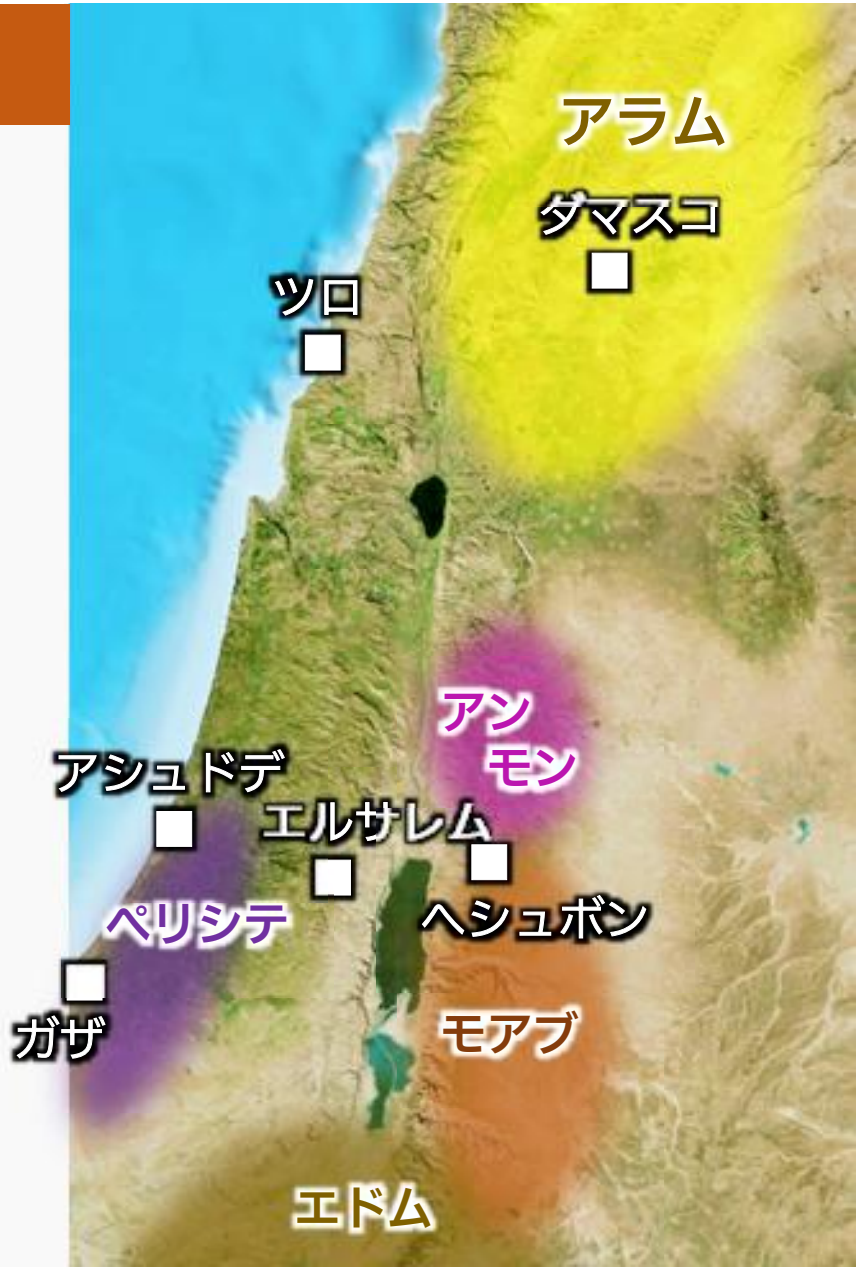
ダマスコ

前説　❸ダマスコとは？

■アラムの都。シリアの中心地。
貿易の要衝の地。交易で繁栄。
…アラム語は、中東広域の共通語に。

■イスラエルと度々衝突。
特に北王国の時代の脅威。
…呪術師バラク。ナアマン将軍。

■アッシリア、バビロニアに征服。



❸ダマスコ　捨てられた都　49:23～25

ダマスコについて。「ハマテとアルパデは恥を見た。まことに、彼らは悪い知らせを聞き、海のようにかき乱され、静まることもできない。

ダマスコは弱り、恐怖にとらわれ、身を翻して逃げた。産婦の陣痛のような苦しみにとらえられて。

どうして、誉れの町、わたしの喜びの都が捨てられたのか。

■ダマスコの都は、かつての繁栄を失った。

ダマスコ

❸ダマスコ　燃える都　49:26～27

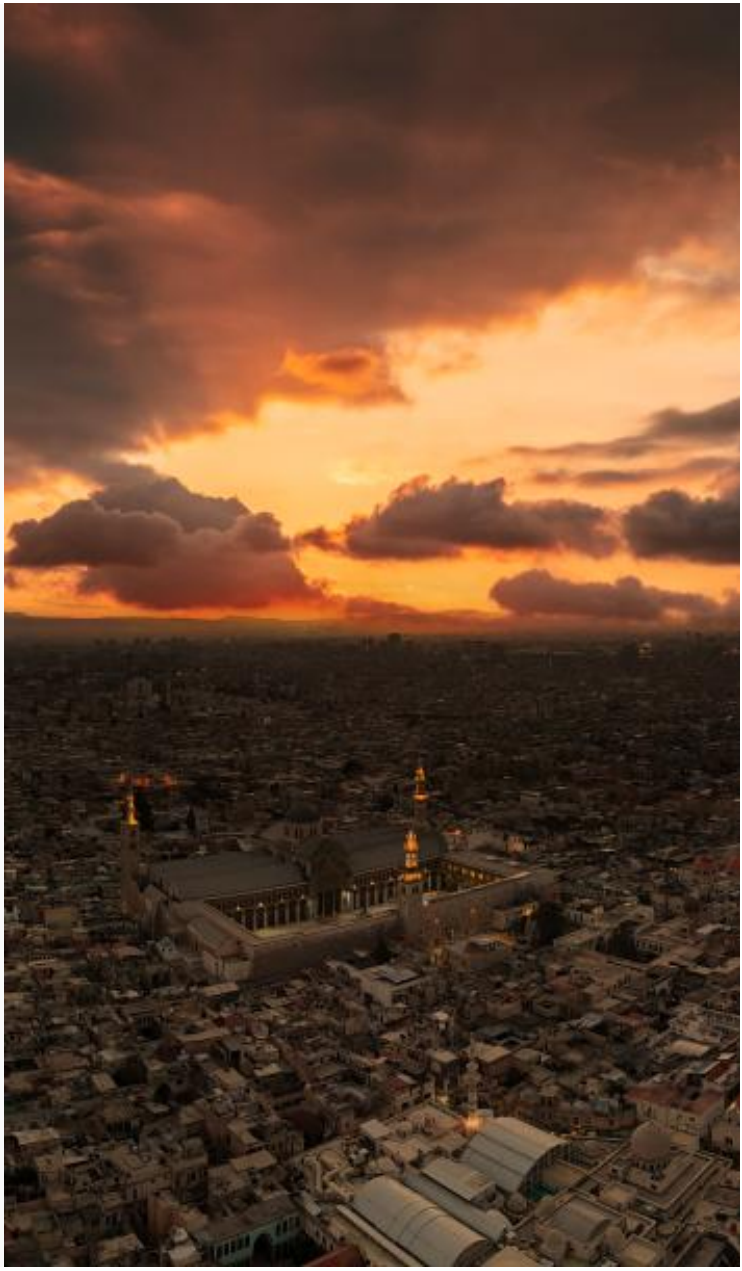
それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。
――万軍の【主】のことば――

わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。その火はベン・ハダド*の宮殿を食い尽くす。」

＊最盛期、エリシャの時代のアラムの王。

➡度々、北王国を侵略

ダマスコは完全に滅ぶ



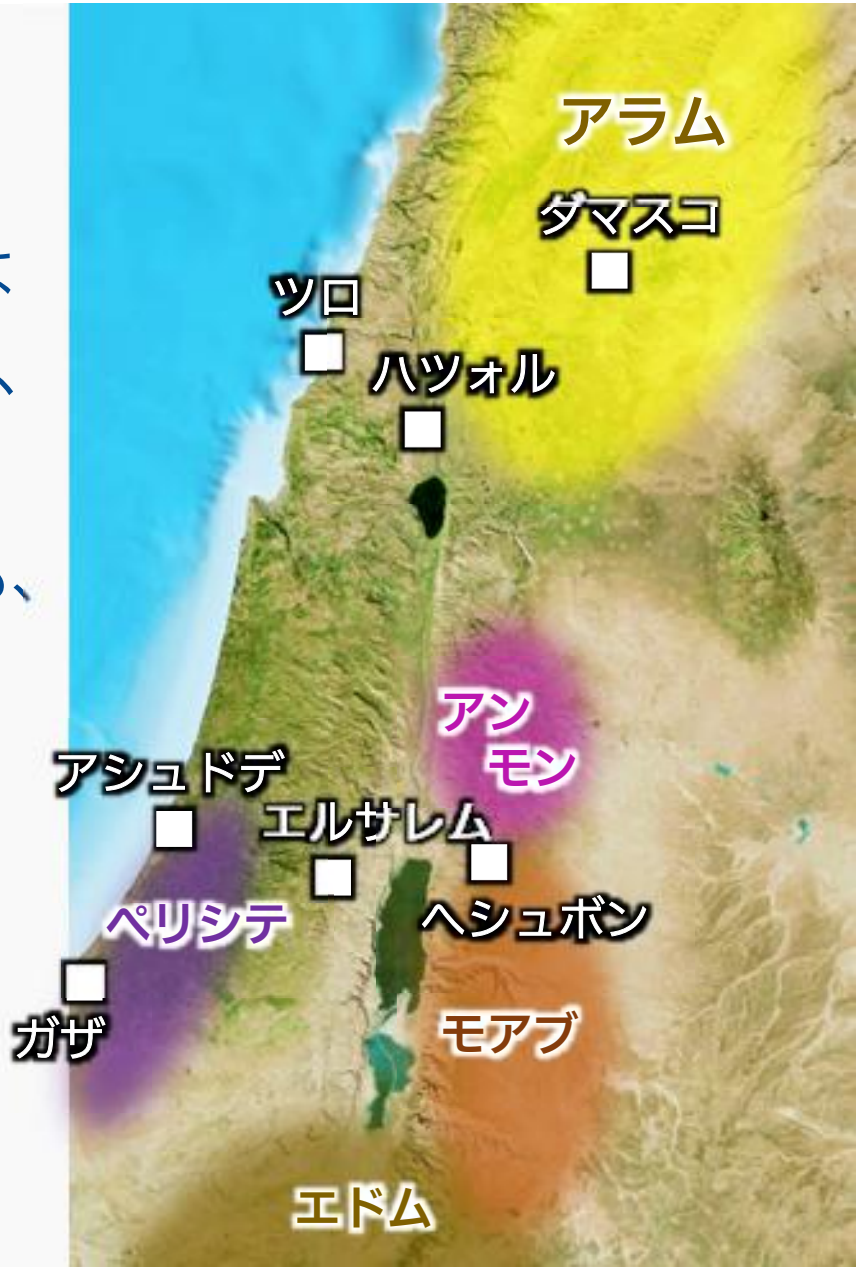
❸ハツォル　ハツォル　49:28～29

バビロンの王ネブカドネツァルが討ったケダルとハツォル*の王国について。【主】はこう言われる。「さあ、ケダルへ攻め上り、東の人々を荒らせ。

その天幕と羊の群れは奪われ、その幕屋も、すべての器も、らくだも、運び去られる。人々は彼らに向かって叫ぶ。『恐怖が取り囲んでいる』と。

＊ガリラヤ北部の古代からの要塞都市

➡一時、ソロモンが整備、統治



❸ハツォル　迫る滅び　49:30～31

ハツォルの住民よ、逃げよ。遠くへ逃れよ。深く潜め――【主】のことば――。バビロンの王ネブカドネツァルが、おまえたちに対してはかりごとをめぐらし、おまえたちに対して計略をめぐらしているからだ。

さあ、安んじて住む穏やかな国に攻め上れ。――【主】のことば――そこには扉もなく、かんぬきもなく、その民は孤立して住んでいる。

■ハツォルにもバビロニアの侵略の手が!!

ハツォル

❸ハツォル　滅亡と荒廃　9:32～33

彼らのらくだは獲物になり、その家畜の群れは分捕り物になる。わたしは、もみ上げを刈り上げている者たちを四方に吹き散らし、あらゆる方向から彼らに災難をもたらす。――【主】のことば――

ハツォルはとこしえまでも荒れ果てて、ジャッカルの住みかとなる。そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」

ハツォルは完全に滅ぶ

ハツォル

まとめ　❸北方の町々　ダマスコ　ハツォル

■アラムの都として繁栄を誇り、北王国を苦しめたダマスコ。
アッシリアの侵略の後、再び繁栄を誇っていた。

■ガリラヤ湖北部の要塞都市ハツォル。
北王国滅亡後、ケダルの民が繁栄していた。
➡本来はナフタリ族の嗣業の地

■イスラエルを苦しめた、ダマスコ、アッシリアも、
バビロニアによって滅亡。

滅び

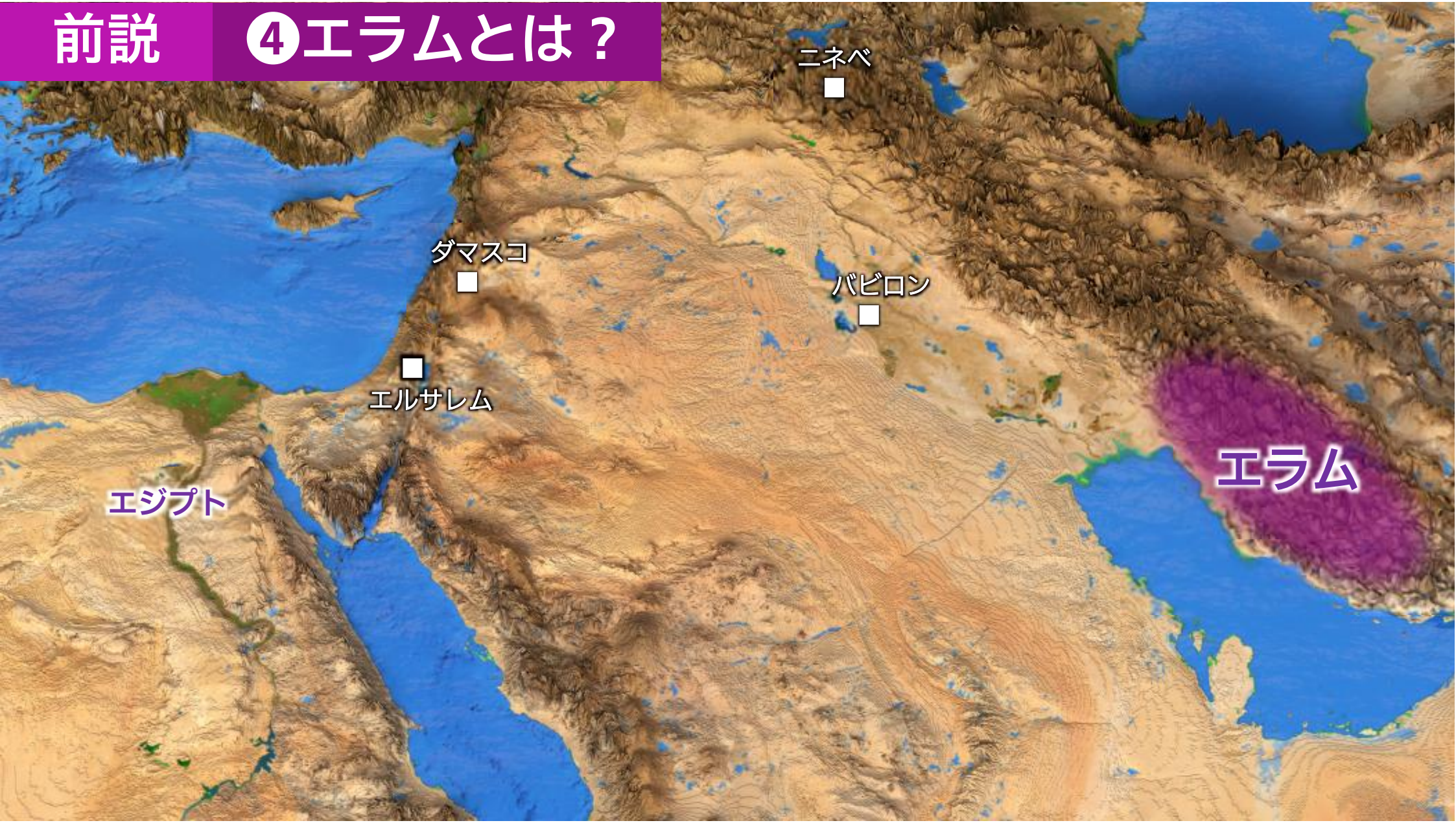
回復

❹エラム

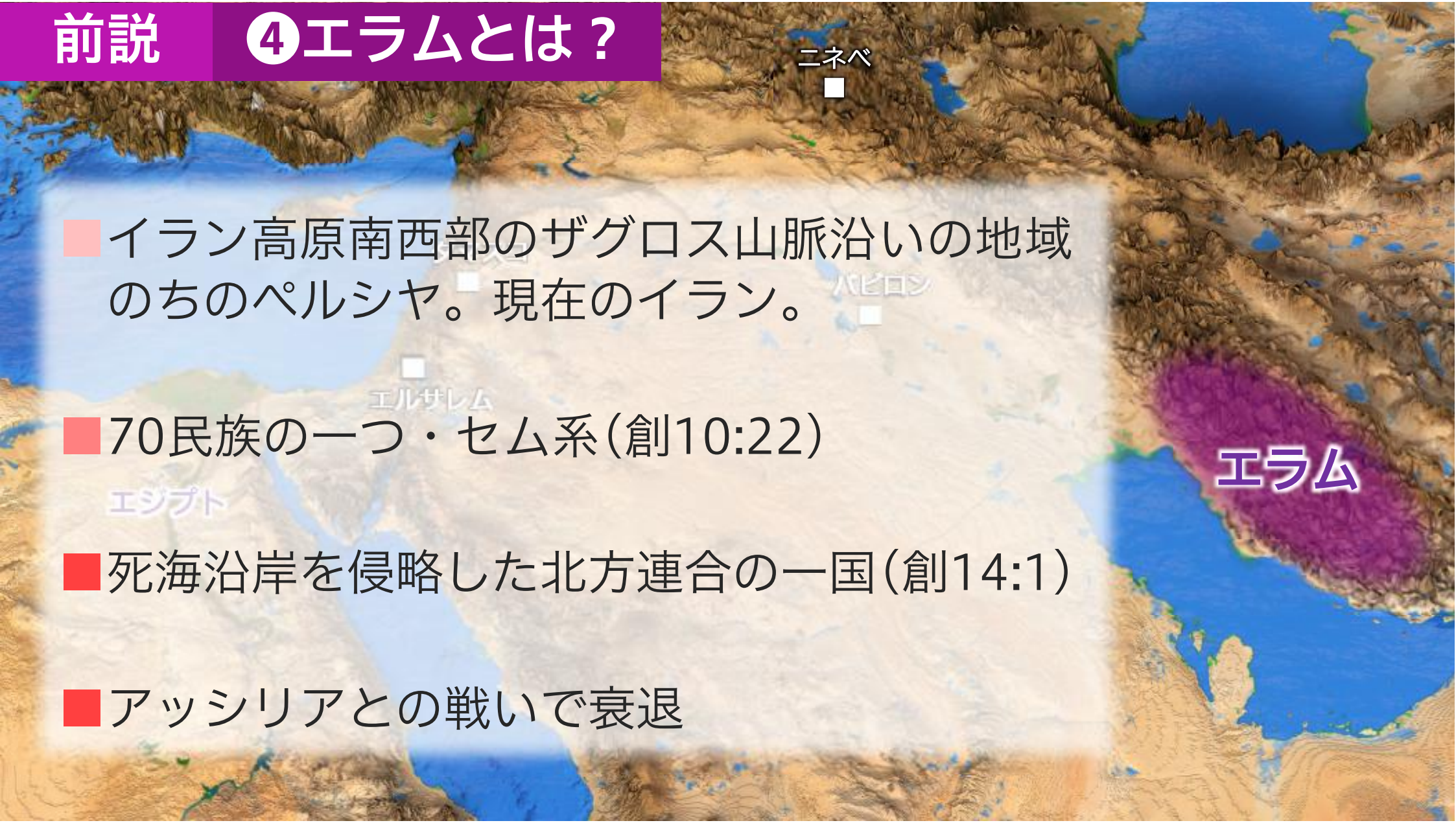
エレミヤ書49章34～39節

イラン・ザクロス山脈

前説 ❹エラムとは？



前説　❹エラムとは？



- イラン高原南西部のザグロス山脈沿いの地域のちのペルシヤ。現在のイラン。
- 70民族の一つ・セム系（創10:22）
- 死海沿岸を侵略した北方連合の一国（創14:1）
- アッシリアとの戦いで衰退

❹エラム　主の御告げ　エレミヤ49:34

ユダの王ゼデキヤ*の治世の初めに、エラムについて預言者エレミヤにあった【主】のことば。

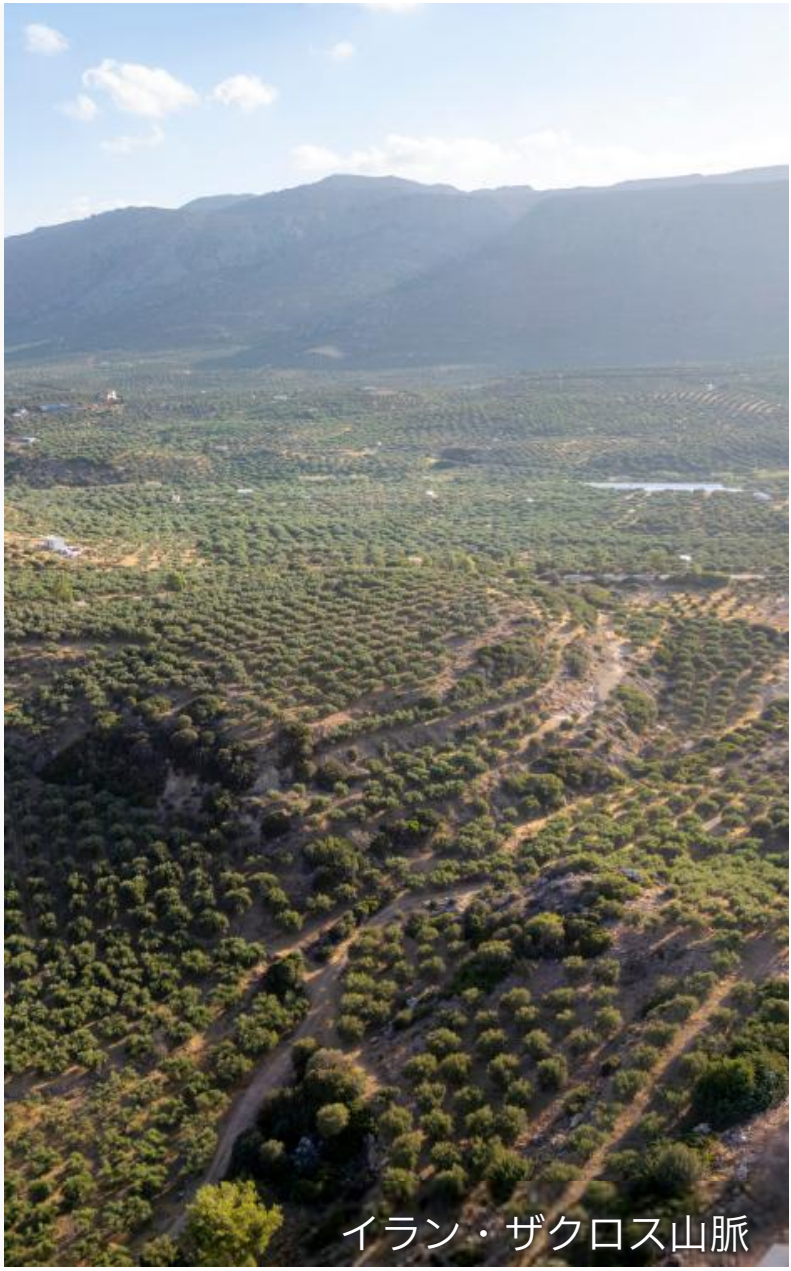
＊南王国最後の王。バビロニアの傀儡。

➡周辺諸国と反逆を企てるが失敗

■バビロン捕囚が迫る中、なぜエラムが？

➡エラムに興るペルシアがバビロニアを滅ぼし、捕囚からの解放をもたらす。

（エラム＝ペルシア）


イラン・ザクロス山脈

④エラム　四方の風　49:35～36

万軍の【主】はこう言われる。「見よ。わたしはエラムの力の源であるその弓を折る。

わたしは天の四隅から、四方の風をエラムに吹きつけさせ、彼らをこの四方の風で吹き散らす。エラムの散らされた者が入らない国はない。

■エラム（のちのペルシア、今のイラン）は、世界中に離散していく。

例）イスラム共和国からの多くの亡命者

イラン・ザクロス山脈

④エラム　主の怒り　49:37

わたしは、エラムを敵の前に、そのいのちを狙う者たちの前にうろたえさせ、彼らの上にわざわいを、わたしの燃える怒りをその上に下す。――【主】のことば――わたしは、彼らのうしろに剣を送って、彼らを絶ち滅ぼす。

■エラムはペルシアに支配、消滅。

ペルシアは、ギリシャに支配。

➡世の終わりには、主が滅ぼす

イラン・ザクロス山脈

❹エラム　裁きと回復　49:38～39

わたしはエラムにわたしの王座を置き、王や首長たちをそこから滅ぼす。――【主】のことば――

しかし、終わりの日*になると、わたしはエラムを回復させる。――【主】のことば。」

＊メシアによる神の国・千年王国

メシアによる裁きと回復が約束

イラン・ザクロス山脈

まとめ　❹エラムの滅びとその後

- アッシリアにより衰退。ペルシアの支配で消滅。
  ペルシアは、アレクサンダー大王のギリシャにより滅亡。
  ➡サーサーン朝…、イスラム王朝…、現在のイランへ

- 離散したイスラエルの居住地の一つ（使2:9）

- 終末に、神の裁きを受ける。
  メシアが建てられる神の国において回復される。**回復**

まとめと適用　　滅びと救いを分けるもの

ダマスコ近郊の町

まとめ	滅びと救いに分けられた		
兄弟民族	❶アンモン	千年王国で回復	回復
	❷エドム	永遠に滅ぶ 千年王国にも廃墟が	滅び
異邦人	❸ダマスコ ハツォル	永遠に滅ぶ	滅び
	❹エラム	千年王国で回復	回復

まとめ	滅びと救いを分ける理由は？		
兄弟民族	❶アンモン	信仰者ロトの子孫	先祖の信仰
	❷エドム	不信仰者エサウの子孫	
異邦人	❸ダマスコ ハツォル	イスラエルを苦しめた	祝福と呪い
	❹エラム	イスラエルを解放した （ペルシア）	

まとめ　滅びと救いを分けるもの

■アンモンとエドムを分けたのは、

➡**先祖の信仰。**それに伴う**神の約束**

■ダマスコ・ハツォルとエラムを分けたのは、

➡**イスラエルへの態度**。土台はやはり**神の約束**

「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

創世記12:3 」

滅びと救いを分けるのは、神の約束

適用　イスラエルを覚えよう

■異邦人の、ダマスコ、ハツォルと、エラム(ペルシア)、
永遠の運命を分けたのは、イスラエルへの態度だった。

■大艱難時代に、生き残った民の永遠の運命を分けるのも、
イスラエルへの態度(羊と山羊の裁き・マタイ25:32～33)。

■イスラエルの救いを覚え、祈り、ささげることの祝福がある。
➡私たちの実感は脇において。主の命令への従順が大事。
例)結果としての祝福。鹿追教会の場合。

適用　個々人の滅びと救いを分けるもの

- 主が定められた、民族的な滅びと救い。

- 一方で、どの民族、どの時代にも、個々人の救いの道はある。

➡それぞれの時代の啓示に従い、**神の約束**を信頼すること

例）主を信じたダマスコのナアマン将軍の癒やしと救い

今の時代、私たちの滅びと救いを分けるのは？

★　私たちの滅びと救いを分けるもの　★

■私の罪のため、死んで復活されたイエスを信頼するかどうか。

■終わりの時代の地域教会の存亡も、**福音**信仰にかかっている。

■偽教師、教えの風に惑わされることなく、**福音**に立ち続ける!!

■イスラエルに、残された者・レムナントがいるように!!

終わりが近づく時代に、残れる信仰者であり続けよう!!

てん　とう　わたし　つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください
わたし　かみ　みこ　しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、
わたし　つみ　あがな　じゅうじか　し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、
はか　ほうむ
②墓に葬られ、
みっかめ　ふっかつ　しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。
ふくいん　わたし　かた　た　つづ
この福音のみに、私たちは堅く立ち続けます。
すく　おぼ　いの
イスラエルの救いを覚え、祈り、ささげます。
ちじょう　わたし　きょうかい　しんこう　きょうどうたい　ささ
地上にある私たちの教会を、信仰の共同体を支えてください。
しゅ　こ　ひ　しゅ　しょうにん　つか　もち
主の来られる日まで、主の証人として遣わし、用いてください。
しゅ　な　いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」